

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400111		
法人名	ウエルエージング株式会社		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	栃木県佐野市町谷町59-1		
自己評価作成日	平成25年9月30日	評価結果市町村受理日	平成25年12月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成25年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護度が比較的重くご自身の思いを伝えることができない方もおり、行動や表情などを観察しながら入居者様の思いに応えられるよう、寄り添う心、思いやる心を大切に、ゆったりと安心して過ごせるような環境作りを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は佐野市の中心部より東へ約5kmの郊外、旧国道50号線沿いに連なる住宅地にあり、事業所のすぐ北側をJR両毛線が走っている。道路を挟んで南側は、万葉自然公園「かたくりの里」の入口になっており、自然環境にも恵まれている。併設の小規模多機能型居宅介護事業所とはドア1枚で繋がっており、共同で行事を実施したり、利用者も行き来するなど気軽な交流が行われている。地元の受け入れも好意的であり、相互の行事を通して地域と交流しているほか、消防訓練には地元住民も参加している。また、火災通報緊急連絡網に近所の人を登録していたり、散歩の際には声を掛けてもらうなど、良好な関係を築いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個人個人を尊重しオーダーメイドの介護を基本理念としその人らしい生活を送れることを目指します。という理念を実践に取り組んでいる。	理念を事務室に掲示しているほか、ミーティングの際に確認し、時折唱和も行い共有化に努めている。また、「一人ひとりの利用者のため」の理念を実践につなげるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に入会し運営推進会議や避難訓練には地域の人に出席してもらって理解や協力意見をもらっている。	地元自治会に加入しており、利用者が自治会の新年会に参加したり、事業所の納涼祭に地元住民が参加するなど、行事を通じた交流が行われている。また、地域の演芸ボランティアグループの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会の中で認知症について説明をして理解を深めて頂くよう努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会では地域の人や家族などから意見や要望評価など頂いてサービスの向上に生かしている。	利用者、家族、自治会役員、民生委員、地域包括支援センター等を構成員とし、活動報告だけでなく、食中毒や職員の研修報告も議題とするなど工夫している。また、会議で出された意見、要望等は、サービス向上につなげるよう努めている。	家族の参加が少ないようなので、参加しやすくなる工夫を期待したい。また、避難訓練の際に会議を開催するなど、消防関係者の参加を促す工夫も期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	多様なニーズについて対応上わからない時には市の担当者に電話して相談している。	市の担当者との定期的な面談はないが、随時連絡を取り相談しており、市の担当者も積極的に対応するなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止宣言を事業所に掲げ個々のケースについて職員間で話し合いながら拘束しないで安全を守る方法はないか考え行っている。	「身体拘束廃止宣言」を事務室に掲示し共有化を図っている。交通量の多い道路に面しているため、玄関のドアをリモコンによる遠隔操作方式とし、事故防止に努めている。また、言葉による拘束にならないよう管理者が指導し、職員間でも注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力や一方的な介護も虐待につながる危険性があることを職員には随時指導している。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	当施設を利用している入居者様を通し制度について職員には説明はしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の時はご家族に分かるよう説明し疑問点には答え理解して上で解約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた時や電話連絡をした際に要望を聞く心がけている。内容によっては職員に伝達しケアに生かしている。	家族が面会に来た時や家族交流会の時などに、意見・要望等を聞いている。利用者の健康等に係る要望はミーティング等で検討し運営に反映させるよう努めている。要望により今年度から広報紙を発行し、家族に配布している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや必要に応じて話し合いの場を設けて職員全員から意見や提案を聞いて日頃の業務に生かしている。	管理者は、ミーティングや主任会議のほか、随時話し合いの場を設けて職員の意見や行事等に係る提案を聞いている。また、意見要望等は、運営に反映させるよう努めている。	職員会議は必要に応じ開催しているとのことだが、月1回は定例日を設けるなど、職員会議の定例化を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が生き生きと向上心を持って働けるよう職員の意見を聞きながら環境や条件整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会をしたり事業所外研修にも本人の希望を聞いて参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の施設長会議や栄養会議等に参加し情報交換しケアの向上につながる様取り組んでいる。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階で必ず本人と会い話を聞きながら不安や要望を伺いサービスの内容について説明することによって安心してサービスを利用できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	登録時契約時に家族と面会し介護上の不安や要望を聞く機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今困っている事に対してサービス内容の説明や利用方法などを話しながらご本人ご家族が安心して利用できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が掃除機をかけると入居様はモップ拭きをし食事の後かたづけも一緒に行い共に行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居様様の想いや様子などを面会に来た時に話しご家族との関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知り合いの人達がいつでも気軽に面会に来られるよう配慮している。	家族や知人が気軽に面会できるように支援している。また、家族や知人との食事などの外出も自由にできるよう支援している。さらに、馴染みの美容院の訪問も受け入れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士の相性を考えお互いが笑顔で過ごしている。時には職員が入り会話をきっかけづくりをしながら入居様様同士が支えあえるような支援に努めている。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後も必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話す時間を作り希望などを聞くようにしている。	入浴時間などで本人と話す機会を作り、カラオケやぬり絵などをやりたいという希望や要望を把握するように努めている。困難な場合は、昔の話を聞いたり、また、表情や態度、反応などから本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前のアセスメントと利用が開始してから利用者や家族との会話などを通して考える様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の流れは決まっているがその時によって散歩へ行ったりレクリエーションに参加している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には面会時や体調の変化時連絡し報告して介護計画の見直しを図っている。	日々の経過記録や本人・家族の要望、職員の意見等を踏まえ介護計画を作成している。見直しは概ね6ヶ月ごととし、状況に変化があれば随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの経過記録や一日の日誌と伝達ノートの情報を共有し介護計画が適切に見直しされるよう生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者前に利用していた美容室を利用したり家族と一緒に外出や外食をしている。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや訪問理容業者などとの交流を通し楽しみのある生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の今までのかかりつけ医との関係を大切に今後とも相談しながら受診の支援も希望により行っている。	これまでの関係を尊重し、かかりつけ医を受診できるよう支援している。家族の付き添いが困難な場合は、職員が付き添いを行っている。受診の際は、連絡票を使用し、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝夕の申し送り時に利用者の体調や変化などが看護師に伝わるようにしている。必要時には受診介助もしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者入院の際には利用時の状況報告を行い病院からは退院時サマリーにて情報提供を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望され看取り方針の説明後同意にて方針を共有し状況変化がみられた場合は同意内容の確認を何度も話し合いをしている。	「やまなみ看取り指針」を作成しており、早い段階から本人、家族と話し合いを行っている。状況の変化に応じ、家族と何度も話し合いを行い確認している。かかりつけ医の協力が得られれば看取りも行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変事や事故に備えてマニュアルを用意している。AEDを導入し講習会を実地している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実地している。近所の人に参加協力してもらい火災通報と同時に連絡できるシステムに登録させて頂いている。	年2回消防訓練を実施しており、うち1回は夜間を想定した訓練を行っている。訓練には近所の人も参加している。また、火災通報連絡網に近所の人3名を登録している。米、水なども備蓄している。	パート職員を含め、全職員が消防設備の操作を完全にマスターするように、さらなる訓練の強化を期待したい。

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し利用者の立場にたった言動言葉使いなどに努めている。	一人ひとりの人格を尊重し、言葉づかいや態度に十分注意している。利用者を「さん」付けして呼び、特に、命令口調にならないよう注意している。トイレ誘導の際も、傷つけないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いを言えるよう雰囲気作りをしたり言葉では意思表示できない場合でもその表情やしぐさから気持ちを理解する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決まってはいるが柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問理容業者に来てもらい希望者にヘアースタイルをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳を手伝っている。	献立は法人の栄養士が作成し、職員が調理している。利用者もテーブル拭きや後片付けを手伝っている。おやつは、利用者と職員と一緒に近くのコンビニへ買いに行く。年に数回は、寿司等の外食に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を日誌に記入し必要時には水分量を経過記録に記入して職員間の連携に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前の口腔体操毎食後の歯磨きを実地している。		

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録からパターンを知り排泄介助の支援をしている。さりげない声かけでトイレへ誘導し自心を傷付けないように支援している。	利用者は全員がリハビリパンツを使用し、うち2人は夜間のみおむつを使用している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、トイレに誘導し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘な利用者には水分を多く摂っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタル実施してから入浴している。	毎日午前中に3人ずつ、3日に1回の割で入浴している。重度の利用者は、職員2人で介助している。また、一人ひとりの希望には柔軟に対応している。現在、入浴時間を午後に変更するかどうかを検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お経を唱えてから休んだりリビングでテレビを観てから休んだり一人ひとりの生活習慣で休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師管理のもと薬ファイルを作り一人ひとりの薬の内容を理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室でお経を唱えたり書き物をしたり好きな事をして生活を送っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には近くのみかも公園でおやつを食べたり中庭でおやつを食べている。	天気の良い日はすぐ近くの自然公園へ散歩に行っている。また、近くのコンビニへおやつなどの買物に行っている。道の駅や花センター、唐沢山や大平山などにも出掛けている。	

グループホームやまなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所で預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	つじつまが合わない話でも職員が話をしてから電話をかけた話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節の花や植木をおき四季を感じられる場所づくりをしている。	共用の空間には、利用者にとって不快をまねくような刺激は感じられない。玄関や廊下には、レクリエーションの写真を掲示したり、季節に応じて飾り付けを行い、居心地よく過ごせるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルやソファー置の空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使用していたタンス時計などを持ってきて頂いてなじみのものを持ってきて頂いている。	居室にはエアコンと洗面台が備え付けられているが、ベッドや調度品などは自由に持ち込むことができる。利用者は、馴染みのものを持ち込み、居心地良く過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手すりが設置しており安全に配慮している。		